

No.3

芥川だより

ご希望の方にはお送りします。お知らせ下さい。

e-mail:akutagawa_dayori@yahoo.co.jp

発行日/2006年9月20日

発行人 梵 ぼん

下村嘉明

高槻市芥川町2-14-3

TEL 072-681-8870



「目」

30年あまり前に、山登りの為に、ヒマラヤの西端、ヒンズークシュ、カラコルムへ行った。岩石砂漠がつづく、荒涼たる山々が連なる地域。とても人の住めるようなところでない。ところが、人間とはすごいもので、住んでいる。人の数は少ないが、キャラバンの途中で会うのである。この地方は、東洋と西洋の交差点であり、その為、若い娘などは、美人が多い、当時の山口百恵さんに似た美人に、何人も、凄い山奥で会った。厳しい風土のために、早く老いるが、若い男女の顔の綺麗さは、とても、われわれ日本人の及ばぬものである。

その上、彼女達の目である。街から山奥までキャラバンし、登山後は、また街に帰るのであるが、たまに出会う人の目が、山奥に行くほど、綺麗に澄んでくる。そして、山から街に近づくにつれ、目つきが悪くなるように感じた。

芥川商店街歳時記

今月の予定

10/6(金)～

10/8(日)

秋のビッ!!クリセール

10/6、7日限定、先着250名様に限りティッシュ進呈

8日には、バンド演奏、高槻WAVEダンス・ユニットなどのイベント

あおぞらライブ

を行います。11時半スタート

10/15(日)

午前9:30～10:30

防火訓練

8月に不審火により発生した火災を教訓として

消防署、地元自治会、消防団、商店街が協力して防火訓練が行われます。

多数皆様ご参加くださいますようご案内します

■ 投稿記事大募集 ■

芥川の飲み処、食べ処

呑み助は、はしご酒をしたがるものであるが
この店にはそれをさせない何かがある。友だちが来れば
いつも寄るがつつい長居してしまう

魚菜処 美舟

営業時間 昼 11時半から14時

夜 17時半から23時

月曜日定休日

☎072-685-1599

安いよぉ～デジカメプリント！

芥川の写真屋さん

年齢不問の童心を応援します。

Food Pantry

犬だって、一緒に住めばなつくんだから、容易に結婚した。23歳といえば田舎では、もらい手なし娘といわれた。周りを見れば、同級生たちは、すでに結婚して子供まであった。高くとまって、選んどってやと陰口を言われた。

結婚はしたものの、共通する話題もなく、両親、小姑に囲まれて、24時間監視体制の下、日がな一日オサンドンばかりの生活。良人は人がいい、親には口答えはしない。夜になれば、両親の背中へまわって、プロなみのツボを知った指圧師になる。弟妹達にも、上の兄ちゃんと親しまれている。そんな中で、私もかばってやっているのかなあ、純情な嫁はん。勝手に思いこんでいたろんな事を、やってみて初めて、結婚というものの意味を私なりに悟った。一度しかない人生を、一体、誰と。はじめて気が狂う程、悩みぬいた。子なきは去る。5年目に、私はやつとの思いで家を出た。あとがわるい。相手は、勝手に家を出たのだから、と仲人さんが話しをしても、一丸となって話し合わなかったらしい。

風も冷たい、けれど、家族の目も冷たい。自分が思う程、必要な存在でもなかったらしい。愛する男性など存在しなかったし。やつぱり、嫁ぎ先へ帰ろうか、てな事になったら。両親の表情が変わってきた。送ってゆく、仲人はん、私もいきます、三人連れ立って、家の中へ入ったら、相手も強物、長いやぶいりですなあ、さあ、御飯の用意しなければー。これが挨拶、スタコラサツサとふたりは、帰途につく。子供がいらないから、身軽に尻があがり、またこのお尻がどつしりとすわるのが、おもしろい人生なのだ。茨の道だと知らなくて、ああ、怖いなあ、誰か手をつないで。



「らしさ」「らしく」という言葉を聞いた事がございますか!! Hさん

私現在七十九歳…。

女学校入学第一日目、担任から「らしさ」…「らしく」…をモットーにという、素晴らしい言葉に接し感動した。今以って忘れる事の出来ない入学の第一号でございました。「学生は」学生らしく。「女は」女らしく。「親は」親らしく。特に我々女性は「母親」「妻」として、子供を育て家を守る女であってほしい。それが昨今の日本ではどうでしょう。「らしさ」を持ち合わせている人がどれだけおられるでしょうか。「男」男らしくがない。「女」女らしくがない。「親」親らしくない。「子供」子供らしくがない。何事によらず己を振り返る事なく、すぐ人の所為にする世の中…情けない限りです。

最近、私達の世代の人まで「らしさ」を忘れている方達が増えているように思われてなりません。子供を躾ける親の威厳が全く見受けられないといっても過言ではないと私は言い切る事が出来ます。私事ですが、母は無学に等しい生い立ちでしたが常々、「女は女らしく」「男には負けて勝て…」と言い聞かされて育てられました。事ある毎に、母を想い尊敬の念で一杯です。

現在、息子五十七歳…が、中学二年の歴史の時間に、歴史上で…又現在社会で尊敬する人物を二人書くよう…と、その時クラスで、二人「母親」と書いた生徒がいた。其の一人が息子であった事を聞かされた時「ホッ」とすると同時に、子供は常に親を見て育っていると思った途端、もつと確りしなければ…と、心を引き締めた記憶がございます。

昔は人様の子でも悪ければ叱り言い聞かせたものです…が、今は、親自身が叱る事を知らず、いいえ、くだらない事で大声を張り上げ叱る…いえ、怒鳴る、「母親」。

体たらくそのものを知らない情けなさ。「親」いや「社会」の教育のやり直しを希望して止みません。「挨拶」「会釈」「礼儀」を忘れた日本人、昔の豊かな心がいつの日戻るでしょうか。

保険屋の裏話

総合保険事務所 谷井 靖

創刊号で「いつ保険に入るのが一番得か教えましょうか…」などと少しふざけた様な事を書いてしまいました。が、「死亡保険は死ぬ少し前に…」「医療保険は病気になる少し前に…」「火災保険は火事の起きる少し前に…」入ると無駄に保険料を払うことなく保険金を受け取ることが出来るということですよ…。これ以上書きますと、誤解を招き、「芥川だより」への投稿を拒否されかねませんので、「得する保険の入り方裏話」はこの辺で終わらせていただきますが…・真面目な話、保険には「健康で長生きしますように」「事故が起きません様に。」と願いを込めて加入することが大切だと思います。

日本は世界一生命保険への加入率が高い国です。そして生命保険の売れる国です。「なぜでしょう？」それは「平和で豊かやからではないでしょうか？」社会保障（年金問題など）に不安はありませんが、平和になり、豊かになり、国民一人ひとりに平均して守らなければならない財産（人・金・物）があるから保険は売れるのです。保険会社は儲かっています！それはいいことなんです、災害や事故、病気や怪我が少ないという裏返しでもあります。

総合保険事務所は？…・儲かってても「儲かってます！って言えませんが

…」ただ、おかげさまで、ご利用いただくお客様からは「この場所はいいわ」と誉められます…・あとは中味です。

地域の皆様、総合保険事務所を「保険の身近な相談所」としてお気軽にご利用下さい。この「芥川商店街」が安心・安全・心暖かい商店街として地域の皆様に親しまれることと、地域の皆様の健康で安全な暮らしを抜きに、総合保険事務所の儲けなどないのです。「おかき」も売ってますので宜しくお願いします。

読者からの投稿

- ・八十の人生映すスクリーン
- ・フゴ、オヒツ懐かし言葉よみがえる
- ・梵自伝一気に読んで故郷みえ
- ・買う顔で入った店で見破られ
- ・先人のロマンに触れる店に逢い
- ・古代ギレ秘めたロマンを今昔

真本嘉代子さん

芥川だよりの創刊おめでとう、出版とは継続なり。死ぬまで続けて下さい、きつと良いことがある。

内航ジャーナル社長 弓庭博行さん

（下村の先輩）

鳥海山

田中久美

鳥海山は、山形県と秋田県の県境に在って、日本海に面し、標高二千二百三十六メートル。またの名を出羽富士と呼ばれている山です。 関西では、山形の位置を分かってくれる人が少ないのですが。 夏でも、山頂付近には雪が残り、青と白のコントラストが美しく、季節毎に目を楽しませてくれます。

小学生の時の担任は、「今日の午前中の授業は、すべて理科」と言って、マイクロバスで鳥海山に連れて行って理科の授業をしたり、夏休みに電話をかけてきて「今、星がきれいに見えるから、外に出て見なさい」という事をする先生でした。学年で十五名と言う事もあって、何をするにも動きやすかったのもあるとは思いますが、とても楽しく授業をしてくれる先生で、NHKの番組にも出演しました。

中学では、三年の夏休みに鳥海登山がありました。夏とはいえ、山の天気は…というように、きれいに鳥海山が見える日はあまり多くないなか、出発当日、雲はあったが晴れわたって、登山には良い天候でした。高山植物も、とてもかわいらしい花から樹木へ、高さと共に移り変わっていく景色を見ながら登りました。

生徒数九十名、先生と数人の父兄の付き添い。私の父も山が好きだったので参加していました。ところが、途中から霧が立ちこめてきて、あつ、という間に視界がきかない状態になり、カッパを着て前の人の足元だけを頼りに、どしゃぶりの雨の中、山頂を目指して歩きました。三十センチ程の狭い道で足を滑らせないよう、一步一步。山頂の山小屋に着いた時は、皆ぐったり、夕食を食べすぐ寝てしまった。

翌朝は、うす暗いうちから、みんな起きだし、とてもきれいな日の出を見る事が出来ました。新山に登って石を積み上げて「これで少しは高くなったかなあ」なんて言いつつ、青空の下、景色を楽しみながら下山しました。

そして、この登山が父との最後の思い出になってしまいました。四ヶ月後父は亡くなりました。



なめこ汁

梵店主

秋も深まりホウ葉が小屋の周りに積もっている時期に、佐々里峠の小屋に行った。Kさんが天然のなめこ汁をご馳走してくれると言うので、酒を大量に買い込み嬉々として出かけた。

しかし、芦生の原生林は私が学生時代歩いた山ではなくなっていた。尾根筋に背丈を超える熊笹が生い茂っていた風景が一変して、笹やシダなどが全くない、見通しのよい歩きやすい山になってしまっていたのだ。Kさんの話では、中国からの排煙が偏西風に乗り酸性雨としてこの地に降る為だという、越前岬から丹後の経ヶ岬にいたる若狭湾を扇とすれば、扇の要が芦生だという。なるほど、佐々里は分水嶺が南北に走っているし、酸性雨も扇の要は濃く強くなるから山が変わってしまったと言う、Kさんの酸性雨が熊笹絶滅の原因とする説にうなづくものがある。しかし、このKさんの説は少数派であり、多数の研究者は鹿が食べたからとか、笹の寿命の八十年目に当たるとか言っているらしい。あと三十年もしたら芦生の森が岩山に変貌してることだけは、ご勘弁願いたい。

Kさんが、なめこ採りに独りで出かけて五時間も経つのに帰って来ない。

私達は宴会の用意をして、なめこの到着を待つ。そして待ちきれずに酒に手をだす、酒飲みの性の悲しさゆえに。とつくに日も暮れ、焚き火の明るさが、周りの暗闇のなかで浮かびあがる。

「道に迷うこともないだろうから、なめこが無くてさらに山奥に入ったか」

「熊にでも遭うたか」

「さがしに行くなら、サバ街道をたどって源流まで下りる者と稜線伝いに三国岳に行く者に分けたら」

「冬でもないから凍死もない、しかし歳をとっているからなあ、ほかにしておく訳にはいかんわ」捜索隊を出さないと誰かが言うが、四人とも酔いがまわりとても行けそうにない。だが、もし十二時になって帰らなかつたら寝てはいられない。芦生はひろい原生林だ、何処へ行ったか分からないKさんを四人で探すのは難しい。まして夜中で我々が酔っている状況では。しかし、ここにいる酔っ払いは、そんなことで納得する連中ではない。夜通し、山を這いずり回っても探す気構えだけはあつた。だが時間が経つに従い酔いが深まる、立って歩くのがせいぜいで、空になった一升ビンを見ても、夜中の捜索は夢の中の話だ。

十時ごろ、小屋の上の道で物音がした。しばらくしてKさんが、さも満足げに、袋一杯のなめこを我々の目の前に差し出した。さあ宴会だ、5キロを超える天然のなめこを鍋に入れ、なめこ汁にした。豪快に食べ始めたが実に美味しい、飲みすぎ気味だった胃がなめこ汁の薬効の為か、酒がさらにすすむ。明け方近くまでKさんの熊笹絶滅話を聞いた。



踊って心に灯を

ともしび

一度参加しませんか？
年齢を問いませんので
どうぞお気軽に
お問い合わせ下さい。お互いに、はげまし合い
元気づけたりしてたのしく
踊っています。



編集後記

3号を発行するためにご支援いただきました皆様に感謝します。最初からの協力者であるYさんと二人で相談して、2年間、二十四回は続けようと始めました。

二年後、芥川だよりのファンの方々とパーティーをするのが目標です。少しでも近づきました。発送を希望される方にはお送りします。次号もご支援をお願いします。

編集ボランティア募集

芥川だよりの取材から編集、配布などに協力いただける方を募集しています。お問合せは「梵」までお願いします。

豊史会 高槻支部

072-685-3354